

クラス	307	担当教員	堀 美和子
テーマ	発達臨床における子ども理解 ―子どもの“こころ”と“そだち”を考える―		
著書・論文	<著書・論文> 「高機能広汎性発達障害児へのアプローチ」 『21 世紀の心理臨床』 ナカニシヤ出版, 2003 「保育園や幼稚園での様子から気になった場合に保育園の中で気をつけること」 『可能性ある子どもたちの医学と心理学』 ブレーン出版, 2002		
研究課題等	「自閉症児の“こころ”をはぐくむ―初期の関係性の発達への心理臨床的アプローチ―」『いのちと向き合うこと・こころを感じること』 ナカニシヤ出版 2013 など <研究課題> 子どもの心理療法課程の検討・ASD 児の発達援助に関する研究・ など		
ゼミナール概要			
キーワード： 発達支援・発達臨床心理学・関係性の支援・乳幼児期～児童期・しょうがい児			
目的と内容： 本ゼミでは、①子どもの発達の偏りやそこからくる困難 ②親子などの関係性から生じる子どもの心理的課題 等について、また、それらに対する発達臨床的支援（発達の課題について心理臨床の視点から考える支援）について検討していきたいと考えています。 子どもの発達については発達障害をはじめとした障害児やその家族の発達支援を中心に扱っていく予定です。実際の発達支援の場では様々な課題が複合的に絡み合っているため、支援者は多様な知識と他者を理解するための適切な視点を持つことが求められます。そのため、必要に応じて乳幼児期の愛着の発達やパーソナリティの発達などについても触れていきます。また、実際に発達支援の場にかかわる機会も検討しています。 ゼミ活動は具体的には全体と個人の 2 種類の活動から構成されています。全体では、先に述べた文献による学習やディスカッション・実践・研究などを通して検討していきます。ゼミ生の一人一人が子どもの心理や発達についての実践的な知識をもとに、子どもたちが地域・家庭・学校で自分らしく生きていくために必要な支援を具体的に考えることができるようになることを目的とします。一方、個人では卒業論文執筆に向けて各自の興味を研究としてまとめていくことが最大の目的です。個人のテーマは必ずしもゼミのテーマと重なる必要はありませんが、できるだけゼミでそれぞれの興味を共有し意見交換をしながら問題意識を固めていきたいと考えています。			
授業計画： 3 年前期は文献を用いて発達支援や研究の基礎的知識を深めながら、ゼミ全体で目標を立てた実践・学習を行います。後期には各自の興味関心について発表したり、トピックスを設けて学習・討論したりしながらより理解を進めます。また、3 年生は関連論文を積極的に読みながら自分自身の問題意識を固め、研究の目的と方法を検討し、4 年次に調査ができることを目指します。また卒業研究のために定期的にミニ課題を設定していきます。ゼミ活動の内容はメンバーの関心や意欲、自発的な動きによっていくらかでも変容していくものです。積極的に関わってください。			
担当教員からのメッセージ			
堀ゼミのメンバーとなるなら ...（毎年ほぼ同じことを書いています！） <求める基本的態度> ・ <u>自分から</u>提案し、動き、考えることができること！ ・ “ことば” その他で相手に<u>自分を表現</u>することを惜しまないこと！ ・ ひとからのメッセージを<u>真摯に受け止める</u>努力をすること！ ・ 先生に“教えてもらう”のではなく<u>自分で“まなぶ”</u>姿勢を持っていること！ <知っていてほしいこと> ・ 私は心理学の立場から障害児だけでなく発達の・心理的な課題を持った子どもの支援・相談に取り組んでいます。小児科臨床・発達相談・療育などに興味がある人や<u>子どもの発達</u>を理解し支援を考えたいと思っている方の参加を歓迎します。それ以外にも、様々な視点から検討したいので、多様な関心を持った学生さんを募集します。 ・ ゼミの時間だけではなく、それ以外の時間に行う活動が重要。文章を書くことや、文献を読むこともどんどん求めますのでそのつもりで。			